

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：34603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370811

研究課題名(和文) 日本中世・近世寺社古記録成立に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Fundamental Research on Japan Middle Ages and early modern temples old record established

研究代表者

河内 将芳 (KAWAUCHI, Masayoshi)

奈良大学・文学部・教授

研究者番号：40340525

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：日本の中世・近世寺社内において作成された古記録がどのような経緯や事由でもって成立し、現代にまで伝来するにいたったのか、その歴史的な実態と意義を解明するため、本研究では、京都の八坂神社に所蔵される古文書・古記録の調査を全期間をとおして実施することができた。また、その調査の結果、八坂神社に所蔵される古文書・古記録の全般をほぼ正確に把握することが可能となった。とくに、近世に編纂された「祇園社記」に収められる古文書・古記録の原本の存在を複数確認することができると同時に、「祇園社記」に先行して神社の歴史をまとめようとする動きがあったこともあきらかとなった。

研究成果の概要(英文)：It met with in any circumstances and grounds old record that was created in Japan in the Middle Ages and the early modern period in the temples, or were led to the legacy to the modern, in order to solve its historical reality and significance, in this study, it was able to be implemented throughout the entire period of the study of ancient documents, old records that are holdings in the Yasaka Shrine in Kyoto. In addition, as a result of the investigation, it has become possible to almost accurately grasp the whole of ancient documents, old records that are holdings in the Yasaka Shrine. In particular, if it is possible to more than confirm the presence of the original was compiled in the early modern period "Gionshaki" to the matches are historical documents, old record at the same time, trying to summarize the history of the shrine prior to the "Gionshaki" that there was a movement that also became clear.

研究分野：人文学

キーワード：京都 寺社 古記録 祇園社

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究代表者は、研究開始当初まで日本中世・近世の都市、とりわけ京都や奈良をフィールドとし、その社会史についての研究をおもにおこなってきた。

この両都市に共通するのは、ともに数多くの寺社が存在することである。それはとりもなおさず、両都市が中世・近世という時代において、日本の宗教界の中心地であったことも示していた。その存在は、その都市社会のありかたにも多大な影響をあたえており、とりわけ京都・奈良の都市社会史の研究には、このような寺社の存在とその影響をぬきにして検討を加えることは不可能であった。

そのことを念頭に研究代表者は、研究開始当初にいたるまで、中世京都の都市祭礼として知られる祇園祭(祇園会)についての研究をすすめていた。

(2) 祇園祭の研究において、その基本的な史料となったのは、八坂神社に所蔵される古文書や古記録であった。そして、それらの多くは、『八坂神社文書』や『八坂神社記録』として活字化されており、これまでの研究において有益に使用されてきた。

しかしながら、研究代表者の研究も同様だが、往々にしてその取り扱い方は、そのなかの限られた古文書や限られた古記録という、一部分の分析や検討に終始することが多かった。ところが、現在に伝わる古文書や古記録は、漫然と、あるいは偶然に残されてきたわけではなかった。現在にいたるまでに、所蔵者の取捨選択、あるいは火災や盗難などといった被害から懸命に守ってきた後のすがたであるという点に注意する必要があるからである。

したがって、研究開始当初の課題としては、史料の一部分を利用するだけでなく、その史料そのものが成立してきた経緯についても検討を加えていく必要があると考えられた。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、日本の中世・近世寺社内において作成され古文書や古記録がどのような経緯や事由でもって成立し、現代にまで伝来するにいたったのか、その歴史的な実態と意義を解明することにある。

(2) 具体的なフィールドとしては、現在でも祇園祭(祇園会)がおこなわれる神社として知られる八坂神社(神仏習合の時代は祇園社・感神院とよばれた)に置き、同社に伝来・所蔵されてきた古記録、とりわけ「祇園社記」とよばれるものをおもな対象にその成立過程をあきらかにする。

3. 研究の方法

(1) 日本の中世・近世寺社内において作成された日記などの古記録がどのような経緯や事由でもって成立し、現代にまで伝来するにいたったのか、その歴史的な実態と成立過程あきらかにするため、基礎的な調査ならびに実証的な研究をおこなう。

(2) 具体的な調査対象は八坂神社(明治以前では祇園社)に置き、同社に伝来・所蔵されてきた古文書・古記録のうち、「祇園社記」をおもな対象として調査・検討をおこなう。

(3) 同時に、現在、八坂神社に所蔵されている古文書・古記録の全般的な調査もおこなう。

(4) 調査の過程において、古文書・古記録をデジタル写真に記録する。

4. 研究成果

(1) 従来、八坂神社が所蔵する古文書は、85巻・40冊・1帖・1通、計2209通(『八坂神社文書目録』文化庁文化財保護部美術工芸課、1990年)として知られてきた。また、それらのほとんどは、『八坂神社文書』上下巻、増補篇として刊本にされている。

本研究において、研究代表者もその一員である八坂神社文書編纂委員会との共同の調査によって、これまで知られてこなかった古文書(中世・近世・近代)の存在を確認することができた。

(2) 文書と同様、八坂神社が所蔵する古記録は、「祇園執行日記」(社家記録)・「祇園社記」・「祇園社記」御神領部・「祇園社記」雑纂・「祇園社記」続録などとして知られてきた。また、それらはすべて、『八坂神社記録』上下巻として刊行されている。

本研究においては、文書と同じように、これまで知られてこなかった古記録(中世・近世・近代)の存在を確認することができた。

(3) 本研究においては、すでに知られていた古文書・古記録ならびに知られてこなかった古文書・古記録のデジタル写真撮影を八坂神社文書編纂委員会との共同作業によっておこない、その全貌をおおよそ把握することが可能となった。

(4) 本研究では、八坂神社が所在する東山に近隣する清水寺に所蔵される古文書・古記録の調査を関連調査として、研究代表者もその一員である清水寺史編纂委員会と共同しておこなうとともに、その整理にもあたった。

(5) (1)でその存在を確認し、(3)によってデジタル写真撮影をおこなった古文書

のうち、主要なもの559点を八坂神社文書編纂委員会との共同作業のもと翻刻し、『新編八坂神社文書 第一部 八坂神社文書』（臨川書店）として刊行した。

(6)(2)でその存在を確認し、(3)によってデジタル写真撮影をおこなった古記録のうち、主要なもの18点を八坂神社文書編纂委員会との共同作業のもと翻刻し、『新編八坂神社記録』（臨川書店）として刊行した。

(7)本研究において主要な研究対象としていた「祇園社記」の原本調査をおこなうとともに、デジタル写真撮影をおこなった。

また、東京大学史料編纂所に架蔵される謄写本「祇園社記」との異同検討の結果、謄写がおこなわれる以前にすでに「祇園社記」御神領部の第一が失われていたことを確認した。

(8)本研究において、その存在が確認された古記録である「祇園会馬上料足下行記」「社中方記」「祇園社雑々日記」「祇園会山鉦事」は、いずれも「祇園社記」に書写されたものとして知れてきた。

ところが、今回確認したものは、いずれもその原本にあたり、「祇園社記」を編纂した近世、18世紀に祇園執行の職にあった行快がこれらを書写したことを裏づけることができた。ただし、その書写にあたっては、文字や文章の遺漏、あるいは誤って書写した部分などがあることも今回あきらかとなった。

(9)行快が「祇園社記」を編纂する以前にも祇園社をめぐる歴史を編纂しようという動きのあったことが、八坂神社文書編纂委員会の下坂守氏によって教示された。

具体的には、これまで知られてこなかった古記録である「祇園本縁雑実記」「祇園社本縁雑録」は、ともに寛文年間(1661~72)に作成されたものと考えられ、当時、祇園社(八坂神社)内および周辺に伝来した古文書や古記録を書写するだけでなく、さまざまな伝承も書き記されており、その時点での祇園社をめぐる歴史や伝承をまとめようとする動きのあったことがうかがわれる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計14件)

河内将芳、三条橋、そして秀次と妻子の塚、本郷、査読無、122号、2016、26~28

河内将芳、歴史学からみた「清水の舞台から飛びおりる」、創造する市民、査読無、106号、2016、33~40

河内将芳、「戦国仏教」論再考、仏教史学研究、査読有、第58巻1号、2015、48~

68

河内将芳、祇園祭と戦国京都、八坂神社崇敬会講演録、査読無、13号、2015、1~30

河内将芳、京都東山大仏の歴史的意義をめぐって、新しい歴史学のために、査読有、286号、2015、62~69

河内将芳、江戸時代の門前町でおこった博奕事件、清水、査読無、200号、2015、71~80

河内将芳、室町・戦国期京都における公家衆・衆庶の祇園会見物について、藝能史研究、査読有、207号、2014、1~14

河内将芳、本法寺と本阿弥家、法華、査読無、第100巻12号、2014、40~45

河内将芳、長谷川等伯と日通上人、法華、査読無、第100巻11号、2014、38~43

河内将芳、竹内季治について、法華、査読無、第100巻10号、2014、39~44

河内将芳、荒木村重の女房衆と妙顕寺、法華、査読無、第100巻8・9号、2014、36~41

河内将芳、松永久秀の母、法華、査読無、第100巻7号、2014、37~42

河内将芳、天正三年の京都見物、本郷、査読無、111号、2014、17~19

河内将芳、足利義輝の祇園会見物について、藝能史研究、査読有、203号、2013、77~89

〔学会発表〕(計6件)

河内将芳、中世の山口祇園会と京都祇園会、大内氏歴史文化研究会、2015年11月23日、山口市大殿地域交流センター(山口県・山口市)

河内将芳、日蓮宗と戦国京都、第14回京都府私立中学高等学校「教育研究大会」第2分科会、2015年10月18日、京都橘中学高等学校(京都府・京都市)

河内将芳、「戦国仏教」論再考、仏教史学会第65回学術大会、2014年11月29日、仏教大学紫野キャンパス(京都府・京都市)

河内将芳、信長が見た戦国京都、備前歴史フォーラム、2014年3月16日、備前焼伝統産業会館(岡山県・備前市)

河内将芳、歴史史料にみる大覚大僧正、第27回法華宗教学研究発表大会、2014年3月14日、東京国際フォーラム（東京都・千代田区）

河内将芳、職人への眼差し、世界人権問題研究センター人権問題シンポジウム、2014年3月9日、池坊短期大学（京都府・京都市）

〔図書〕（計18件）

仁木宏・山田邦和・中島信親・山本雅和・梶川敏夫・京樂真帆子・大村拓生・杉本宏・野口実・福島克彦・鍛代敏雄・森島康雄・中村武生・坂口満宏、河内将芳、文理閣、歴史家の案内する京都、2016、134～146、204～210

仁木宏、古市晃、山田邦和、京樂真帆子、大村拓生、福島克彦、山村亜希、山本雅和、山近博義、河内将芳、吉川弘文館、日本古代・中世都市論、2016、137～161

清水寺史編纂委員会（森清範、川嶋將生、源城政好、下坂守、吉住恭子、安田歩、渋谷一成、酒匂由紀子、田中香織、高橋大樹、大西真興、森孝忍、坂井輝久、河内将芳）、法蔵館、清水寺成就院日記 第二巻、2016、392

八坂神社文書編纂委員会（森壽雄、橋本正明、仲林亨、東條貴史、横山朋子、安居智美、源城政好、渋谷一成、下坂守、安田歩、吉住恭子、河内将芳）新編八坂神社記録、2016、892

河内将芳、吉川弘文館、落日の豊臣政権、2016、198

今村家文書研究会（川嶋將生、木下光生、重光豊、大場修、秋元せき、小林ひろみ、左右田昌幸、泉亭理、河内将芳）思文閣出版、今村家文書史料集、上巻 2015、271

河野元昭、谷端昭夫、内田篤呉、天野文雄、岡佳子、玉蟲敏子、根本知、ルイズ・アリソン・コート、河内将芳、宮帯出版社、光悦、2015、65～80、81～98

川端泰幸、窪田京子、小林一岳、酒井紀美、桜井彦、佐藤雄基、志賀節子、大喜直彦、高谷知佳、田村憲美、則竹雄一、東島誠、平井上総、藤井崇、古野貢、矢部健太郎、渡辺滋、河内将芳、竹林舎、生活と文化の歴史学6 契約・誓約・盟約、2015、298～327

清水寺史編纂委員会（森清範、川嶋將生、源城政好、下坂守、吉住恭子、安田歩、洪

谷一成、酒匂由紀子、田中香織、高橋大樹、大西真興、森孝忍、坂井輝久、河内将芳）法蔵館、清水寺成就院日記 第一巻、2015、415

森洋久、若松正志、菅良樹、奥澤康正、福本和正、鈴木久男、辻垣晃一、粟田純司、金久孝喜、豊田知八、上林ひろえ、石川武男、中澤聡、中村武生、坂井輝久、佐久間貴士、葉山美知子、金子務、小寺裕、鳴海風、小林龍彦、林進、高木浩明、伊海孝充、森上修、河内将芳、思文閣出版、角倉一族とその時代、2015、40～53、56～68

河内将芳、淡交社、絵画史料が語る祇園祭、2015、175

千田嘉博、下坂守、土平博、河内将芳、ナカニシヤ出版、城から見た信長、2015、73～94

家塚智子、宇那木隆司、山路興造、川嶋將生、西山剛、野地秀俊、吉田栄治郎、中野洋平、斉藤利彦、村上紀夫、河内将芳、世界人権問題研究センター、職能民へのまなざし、2015、177～198

河内将芳、吉川弘文館、歴史の旅 戦国時代の京都を歩く、2014、160

八坂神社文書編纂委員会（森壽雄、橋本正明、仲林亨、東條貴史、横山朋子、安居智美、源城政好、渋谷一成、下坂守、安田歩、吉住恭子、河内将芳）臨川書店、新編八坂神社文書、2014、668

赤尾栄慶、冠賢一、木村中一、桐谷征一、寺尾英智、中尾堯、中尾真樹、羽田聡、簗輪顕量、望月真澄、湯浅治久、湯山賢一、河内将芳、同朋舎メディアプラン、図説日蓮聖人と法華の至宝 第三巻 典籍・古文書、2013、193～196

渡辺宝陽、佐々木馨、簗輪顕量、木村中一、関戸堯海、浜島典彦、中尾堯、庵谷行亨、上田本昌、小川泰功、望月真澄、寺尾英智、河内将芳、平凡社、別冊太陽 日蓮 久遠のいのち、2013、122～131

河内将芳、淡交社、日蓮宗と戦国京都、2013、279

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河内将芳 (KAWAUCHI, Masayoshi)
奈良大学・文学部・教授
研究者番号：40340525